

令和6年度 授業改善推進プラン 家庭科

家庭科では、生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的、体験的な活動を通して生活をよりよくしようと工夫する資質・能力を育成することを目標とする。

課題

○知識・技能

- ・家庭の仕事を分担している児童は少なくないが、手先の動きは不器用な児童が多く、全体的には折り紙制作などの生活経験は多くない様子がうかがえる。基礎的、基本的な知識及び技能を一人一人が身に付けることができるように、スモールステップでポイントをおさえ、見通しをもって活動ができるようにする。製作した作品が生活に役立つもので、モチベーションを高める題材を設定していく。

○思考・判断・表現

- ・授業の90分間を通して学んだことや成長したこと、自己の課題を明確にし、言語化できる児童が少ない。自分の学習のめあてを明確化し、自分の課題を見付け、自分が考えたことを相手意識をもって表現できるように支援していく。また、生活についての見方、考え方の視点を提示し、気づきを増やしていくようにする。

○主体的に学習に取り組む態度

- ・調理や製作の学習に意欲的に取り組む児童が多い一方、初めて経験すること、少し難しそうにみえることに挑戦しようとならない児童も少なくない。挑戦してやりきった達成感を味わわせたり、興味をもてる題材を選んだりすることで、「やってみよう」という態度を高めるようにする。自分や家族の生活をよりよくしようとする実践的態度が高まるように支援していく。

授業改善策

【5・6年共通】

- ・調理・裁縫どちらにおいても、見本動画や作成説明動画をオクリンクプラスに軽量化してアップすることで、児童一人ひとりが各自の進度に合わせて見直すことができるようにする。
- ・オクリンクプラスの「みんなのボード」を使って各自の考えを共有したり、作品を見合いコメントしたりする機会を増やし、協働的な学びを進める。
- ・オクリンクプラスで振り返りや、作品の制作途中経過の写真の提出をさせることで、ポートフォリオファイルとして自分の成長を可視化しやすくできるようにする。

【5年】

- ・自分の生活と身近な環境との関わりに気づき、物の使い方などを工夫できるようにする。
- ・家庭には自分や家族を支える仕事があることが分かり、自分の仕事をすすんで行えるようにする。

【6年】

- ・調理や裁縫での学びを日常の生活に生かせるよう、題材を工夫する。
- ・持続可能な社会に向けて、自分事としてとらえ、実践をしていこうとする心情を育てる。
- ・安全で正しい知識や技能が用いられるように支援したり、友達同士で話し合ったりして、家庭生活を大切に作る心情を育み、生活をよりよくしようとする実践的な態度を育てる。
- ・2年間の学習を振り返って中学校の学習に生かしていけるようにする。